

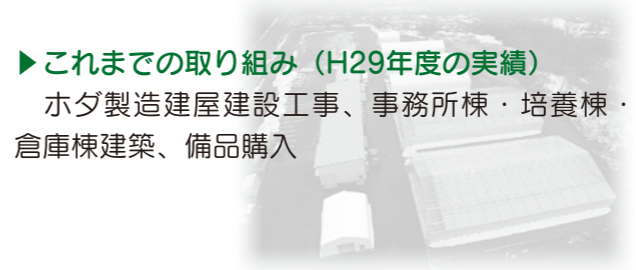
総合戦略を振り返って I. 仕事づくりのための産業振興

数値目標の達成状況 目標：新規雇用者数…平成31年度までに100人
達成状況：平成27年度27人、平成28年度0人、平成29年度22人(計49人)

(1) 菌床しいたけ産業基盤強化事業

▶事業内容
ホダ生産ラインの改良、拡張により、ホダ生産量を従来の200万個から300万個に増産し、生産希望者に安定的に供給することで、『しいたけ産業』の基盤強化を促進するとともに、町内に新たな雇用の場を創出する。

▶これまでの取り組み (H29年度の実績)
ホダ製造建屋建設工事、事務所棟・培養棟・倉庫棟建築、備品購入



今後の方針・改善点
現在岩手県から購入しているナラ材(菌床原料)は町内に十分あることが判明したため、県が中心となり栽培実証試験、ナラ材の生産・オガ粉製造施設整備などについて検討していく。

(2) 生薬栽培推進事業

▶事業内容
農業経営基盤の強化や安定収入の確保、耕作放棄地対策の一つとして、生薬栽培の普及を推進する。

▶これまでの取り組み (H29年度の実績)
・試験栽培(町有農地) カミツレ、キキョウ、シャクヤク、ウイキョウなど9品目。
・農家栽培 カミツレ…6農家、約15a収穫。(乾燥品で約51kgを出荷) キキョウ…3農家、約20a収穫。(乾燥品で約34kgを出荷)

今後の方針・改善点
試験栽培の継続。栽培体系の確立、安定生産に向け、龍角散からの寄附金を活用し、備品購入、作業場の建設を行い、作業等の効率化を図り、栽培農家、作付面積の拡大に努める。カミツレ、キキョウ以外の品目についても、販売先の確保に努める。
★龍角散のCMに畑しか映らず、もったいない。町名テロップだけでなく風景や位置図などを差し込んでもらえないか。

(6) 特産品販路拡大事業

▶事業内容
世界自然遺産白神山地のネームバリューを活かした『八峰白神商品』の開発等を行うとともに、首都圏等での販路拡大・開拓及び観光PRもあわせて展開することにより、町内事業所の生産性及び経営基盤の強化等を図る。

▶これまでの取り組み (H29年度の実績)
・はっぼううましブランド商品として、「カレイの煮付け」の開発、商品化を目指した。
・首都圏での特産品フェアを2回開催…延べ6日間の売上1,003千円、来客350人
・県との協働イベント「ハタハタフェスティバル」に参加。

今後の方針・改善点
はっぼううましブランド推進協議会と協働で町特産品を活用した新商品開発を進めながら、各種イベント等で販売を通じた総合的なPRを行う。県主催の特産品開発コンクールにおいて2年連続で入賞していることから、当該製造元企業と町内事業者の情報交換の場を設け、より一層の特産品開発と販路拡大を推進する。
★はっぼううましブランドは、コンサルには利益があるが事業者には恩恵がないのではないか。

(7) 滞在型観光推進事業

▶事業内容
観光入込客数が減少傾向にあり典型的な「通過型観光地」であることから、地域関係団体等と連携・協働して、自然、特産品など競争力のある地域資源を活用した体験型事業の充実と施設の整備等により「滞在型観光地」への転換と交流人口の増加を図る。

▶これまでの取り組み (H29年度の実績)
・御所の台ふれあいパークに、ボランティアの手により桜の苗木180本を植樹し、海の見える桜の名所の充実を図った。
・ハタハタ館の隣接地に新源泉が湧出したことから、「新源泉利活用検討委員会」を開催し、様々な活用案をまとめ上げた。 など

今後の方針・改善点
東北観光復興対策交付金を活用しながら、能代市山本郡の広域観光連携の充実にも「あきた白神DMO」の組織づくりを継続する。五能線や白神山地、白神の恵みである食などを観光資源に組み合わせた旅行商品造成に取り組み、滞在型観光と交流人口の増加を目指す。
★滞在型観光の振興には、イベントを単発で開催しても効果がない。通過型から滞在型観光への転換には、官民一体となった取り組みが必要。

総合戦略を振り返って II. 移住・定住対策

数値目標の達成状況 目標：社会減の抑制… △71.6人 → △35.8人
(H24~H26の3か年平均) (H29~H31の3か年平均)
達成状況： △79.3人 → △81.6人 → △54.0人
(H25~H27の3か年平均) (H26~H28の3か年平均) (H27~H29の3か年平均)

(1) 定住促進用空き家改修事業

▶事業内容
懸案である空き家を体験型事業の実施や移住希望者等に貸し出すための住宅として整備し、移住・定住者の確保に繋げる。「移住者提案型リフォーム」については、移住者によるデザイン検討から入居までをニコニコ動画等のメディアを通じて、全国に発信していく。

▶これまでの取り組み (H29年度の実績)
活用件数
・町提案型リフォーム 1件
・移住者提案型リフォーム 1件 など

今後の方針・改善点
活用件数
・町提案型リフォーム 0件
・移住者提案型リフォーム 2件(約5人)

(3) 情報発信強化事業

▶事業内容
ウェブサイトやSNSを有効活用するとともに、移住促進パンフレットやプロモーション映像等を製作することで、白神山地や日本海などの自然の豊かさや暮らしやすさなどを効果的に情報発信し、町内への移住・定住を促進する。

▶これまでの取り組み (H29年度の実績)
・Facebookによる発信
・全国移住ナビの充実 (アクセス状況 全国56位 県内1位)
・YouTubeによる発信(6回)

今後の方針・改善点
・Facebookによる発信
・全国移住ナビの充実
・YouTubeによる発信

(5) 田舎暮らし体験事業

▶事業内容
お試し暮らしや体験居住を通して移住前の様々な不安を解消し、本格的な移住へと繋げる。また、この田舎暮らし体験等の事業を通じて、都市と地域の共生を目指し、都市住民と地域住民の良好な関係を築き、地域社会の活性化を図る。

▶これまでの取り組み (H29年度の実績)
・第5回移住ツアー【H29.6.23~25】(参加者)8名/定員10名
・第6回移住ツアー【H30.2.10~12】(参加者)6名/定員10名 など

今後の方針・改善点
・第7回移住ツアー【H30.7.28~30】(参加者)4名/定員8名
・第8回移住ツアー【H31冬頃予定】
★移住ツアーに関する実績は、「参加者数」ではなく「参加者のうち移住者数」とすべき。

(6) 定住奨励金事業

▶事業内容
U・Iターン者に対し、奨励金等を交付することにより定住の促進を図り、地域の活性化に寄与する。(対象者)
町外で5年以上生活したUターン者、及びIターン者。ただし、在学期間除く。

▶これまでの取り組み (H29年度の実績)
・定住奨励金 単身(150,000円 交付)…10世帯(10人)、世帯(300,000円 交付)…8世帯(17人)
・住宅取得等助成金 補助対象経費×1/2(上限:500,000円)…4世帯

今後の方針・改善点
・定住奨励金は継続
・住宅取得等助成金は、建設課事業(住まいづくり応援事業補助金)に統合し、廃止。(H30.3取得分まで経過措置あり)